



投資環境

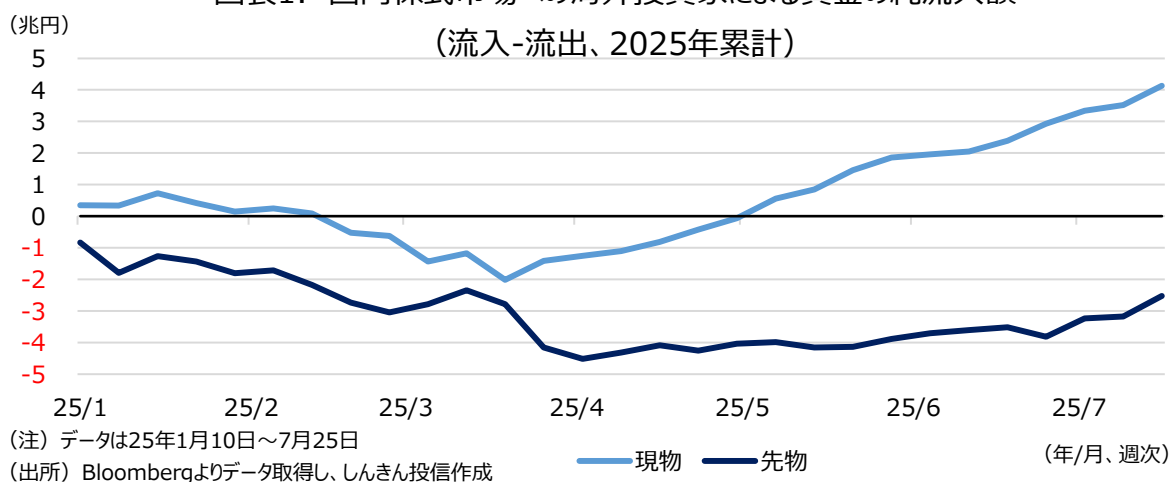
2025年8月7日

日本株への海外投資家の資金流入続く、背景は？

▣ アベノミクス相場以来の資金流入

国内株式市場への海外投資家の資金流入が継続しています。東証によると、海外投資家は現物で 7 月第 4 週まで 17 週連続で日本株を買い越しています。これは、2013 年のアベノミクス相場以来のことです。年初からの資金流入額は合計約 4 兆円に拡大し、先物の売り越しも約 2.5 兆円まで縮小しています。ここでは、海外投資家の資金流入が続く背景をまとめたいと思います。

図表1. 国内株式市場への海外投資家による資金の純流入額
(流入-流出、2025年累計)

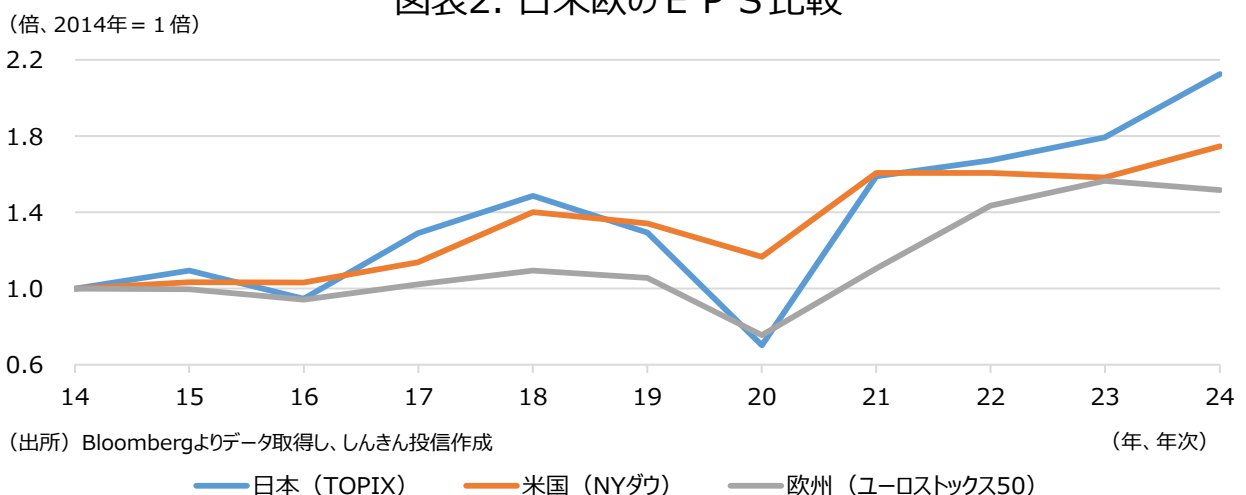


▣ 背景

① 好調な業績

主要国の業績の伸びを比較すると、過去 10 年では日本株がもっとも伸び率が高くなっています。日本株の一株あたり利益 (EPS) は、売上高に対する利益率の改善などを背景に、2014 年から 2024 年の間で 2 倍以上伸びており、米欧の伸びを上回っています (図表 2)。

図表2. 日米欧のEPS比較

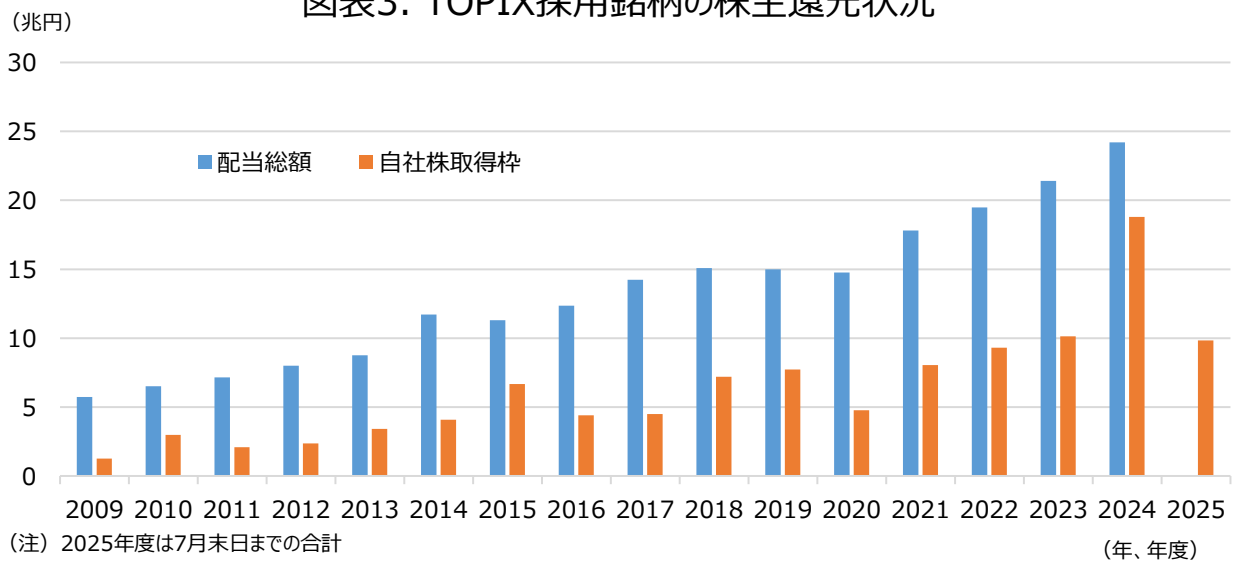




②株主還元強化

東証が2023年に上場企業に対して資本コストを意識した経営の実現を要請したことや、物言う株主(アクティビスト)の活動が活発化していることを背景に、株主還元を強化する日本企業が増加しています。TOPIX採用銘柄の配当総額は、増加傾向が続いているほか、自社株買いは2024年に大幅に増加しました(図表3)。また、2025年度の自社株買いは7月末時点で、すでに10兆円程度になっており、大幅に増加した昨年を上回る可能性があります。

図表3. TOPIX採用銘柄の株主還元状況



③相対的な割安感

債券と比較した株式の投資妙味の高さを示すイールドスプレッド(株式益回り-10年債利回り)の高さは、日本が日米欧の中では最も高くなっています。日本株は、株価の割安感を示す株式益回り(=一株当たり利益/株価)が米国と比較して高く割安感があることに加えて、長期金利が米国や欧州と比較して低いため、イールドスプレッドが3か国・地域のなかで最も高くなっています。

図表4. 日米欧の株式の投資妙味(イールドスプレッド)の比較(7月末時点)

	日本	米国	欧州
イールドスプレッド (①-②)(%)	4.72	-0.11	3.55
株式益回り(%)	6.28	4.26	6.24
10年債利回り(%)	1.56	4.37	2.70

(注) 欧州の10年債利回りはドイツ (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

上記3点などを背景に海外投資家は日本株への投資を増やしているとみられます。加えて、トランプ大統領の関税政策など米国の経済政策への不確実性の高さが嫌気され、米国から日本へ資金を移す海外投資家が増えている可能性があります。



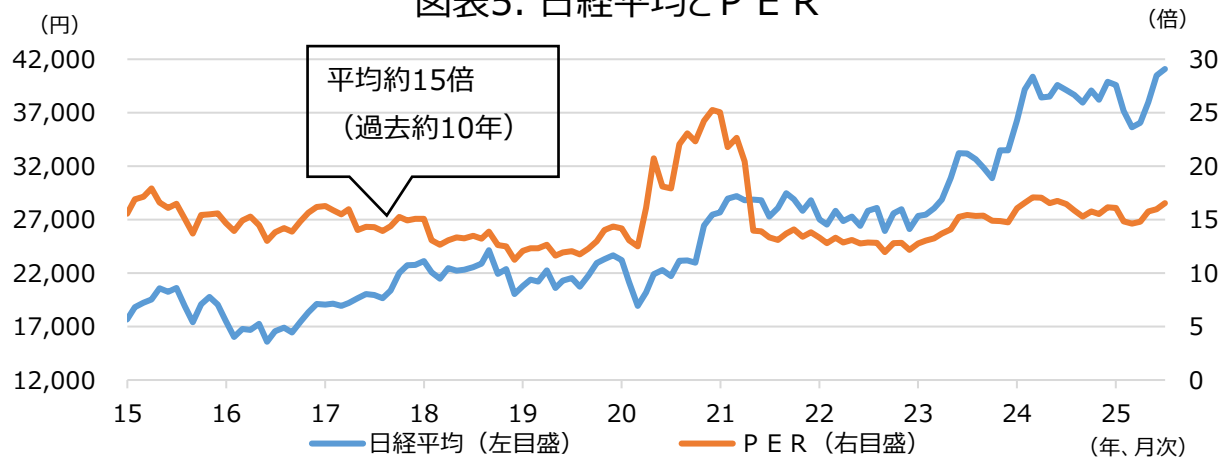
しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

□ 今後の見通し

足元の日本株は、株価収益率（P E R）が過去約 10 年の平均値よりも高くなっており、短期的には調整する可能性があります（図表 5）。例えば、国内政治の混迷や日銀の利上げ観測の高まりを背景に、海外投資家の資金が流出し、調整局面を迎える恐れがあり、警戒が必要です。

ただし、長期的には上述した 3 点の要因を背景に海外投資家の資金流入が増加すれば、日本株は堅調な動きとなることが期待できそうです。

図表5. 日経平均と P E R



（注）データは、15年1月から25年7月まで

（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

（ストラテジスト 澤村一樹）



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。